

会 議 録

(1 / 7)

会 議 の 名 称		第3回 川越市文化芸術振興計画審議会
開 催 日 時		令和7年9月29日(月) 午前10時00分 開会 ・ 午前11時00分 閉会
開 催 場 所		川越市役所7A会議室
議長(会長) 氏名		関口 俊一
出席者(委員) 氏名(人数)		会 長：関口 俊一 副会長：野上 竜一 委 員：中島 裕紀、青柳 達雄、白井 紀行、後藤 徳子、 江原 誠、岩瀬 善彦、伊藤 彰一、西野 與利子、 <u>計10名</u>
欠席者(委員) 氏名(人数)		松本 隆、金子 洋子、山内 裕美 <u>計3名</u>
事 務 局 職 員 職 氏 名		文化スポーツ部 部 長 奥富 和也 文化スポーツ部文化芸術振興課 副部長兼課長 小高 浩人 副課長 奥富 崇史 副主幹 増川 聡 主 査 岸野 崇洋 主 査 内木 萌理香
会 議 次 第	1 開 会 2 議 事 (1) 第四次川越市文化芸術振興計画(原案)について (2) その他 3 閉 会	
配 布 資 料		・ 令和7年度 第3回川越市文化芸術振興計画審議会次第 ・ 川越市文化芸術振興計画審議会委員名簿 ・ <資料1>第四次川越市文化芸術振興計画(原案) ・ <資料2>前回審議会等意見と事務局回答 ・ <資料3>第四次川越市文化芸術振興計画策定スケジュール

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
司 会 (文化芸術 振興課長)	1 開会（午前 10 時 00 分）
	2 議事 ※傍聴なし （1）第四次川越市文化芸術振興計画（原案）について
事務局	【主な質疑応答の経過】 （1）について説明。
委 員	53 ページの計画の指標についてだが、ここが最も大事な箇所になる。今日の一回の審議で終わらせてしまっていていいものかと思う。 指標 1 の市立図書館指標だが、5 年の期間で 1 件増というものになっているが少々寂しい感じがする。本の貸出数や、入館者数を指標にしたらどうだろうか。 町の書店は減少しているところであるが、素案や原案においてそうした言及はないようだ。文芸川越を書店で販売できないかとも思う。書店によっては川越を舞台にした本のコーナーを設けているところもある。そうした書店を文化の発信拠点として市が支援できないだろうか。 指標の 2～6 はすでに A ランク評価を得ているものではないだろうか。B ランクの指標を A ランクへ持っていくというのならわかるが、すでに A ランクのものをまた A ランクへ持って行こうとすることは志が低いのではないかと感じる。
事務局	53 ページの市立図書館に関する指標については、入館者数を検討した経緯もあったが、次期教育基本計画に採用しようと検討している「市立図書館における児童向け特集展示の全館合計実施回数」を文化芸術振興計画原案にも盛り込んだものである。教育基本計画と指標を併せていくことで、計画間の連携をうまく図りたいと考えている。 指標 1 の 5 年間で 1 件増ということについては、今後少子化が進んでいくことを見込むと、未来に向けて児童向けの企画の拡大が難しいという背景がある。そのようななかでも、こども向けの企画を維持、微増に何とかもっていけないかという思いがあり、このような指標設定をさせていただいている。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
事務局	指標 2～6 が A 評価ではないかという御指摘については、目標値を超えていないものについては A 評価にしていないので、これら指標 2～6 に目標値と現在値を当てはめると B 評価になるものと事務局としては認識している。 街なかの書店の減少ということについては、事務局として事実として認識しているところであるが、文化芸術振興計画にて書店営業という民間事業の振興などをカバーすることは難しいと考えており、記載していないという状況である。 文芸川越を書店で販売できないかということについては、現在は文化芸術振興課での販売となっている。文芸川越については、前回の審議会でも種々御意見をいただいております、市の事業として特出しして見直しなどをかけていきたいところであるので、販売チャネルの考え方として、今後の検討にあたり参考にさせていただきたい。
委 員	(53 ページの指標 2 のように) 95.6%という高い水準でも B ランクになるものなのか。95.6%も 97.0%もおおよそ 100%に近いということであまり違いがないように思う。現在値が 95.6%もあって B ランクというのに違和感がある。 指標 5 についても現在値が 97.1%で目標値が 98.0%という 100%に近い水準になっている。パーセントで指標を設定するというのはいかなものだろうか。
事務局	B ランクか A ランクかという点については、目標値に達していない場合、目標値に対する現在値の割合で B～D ランク評価をつけるような手法を採用している。 現在値も目標値も 100%に近いのではという点については、美術館との打ち合わせのなかで、そもそもアンケートで 100%の満足度を得ることは現実として困難であると話があったところである。そのようななかで、事務局としては満足度 100%という理想に向けてどこまで近づけられるかということを検討し、過去の推移などを踏まえ、このような 97.0%という目標設定をしたところである。
委 員	指標 6 について、「市立博物館等の利用者数」とあるが「等」とはどのような意味か。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
事務局	「市立博物館等の利用者数」についてであるが、市立博物館の入館者数と、市立博物館が開催する講座の参加者数、本丸御殿の入館者数を足したものである。
委 員	3 ページの「計画の対象となる文化芸術」に国民娯楽として囲碁・将棋などの記載があるが、9 ページのアンケート結果をみると、囲碁・将棋という回答がないようである。アンケートをとるのならば、囲碁・将棋も入れたほうがよいと思う。 52 ページの「計画の進行管理」に「定期的に」とあるが、1 年に 1 回などと書かないと、極論 5 年に 1 回でも「定期的に」となってしまう。下の図の方に「年度評価等」とあるので年度ごとに行うというのは読み取れるのだが、具体的にわかるような記載になるとよい。
事務局	アンケートについてであるが、「その他」の回答で囲碁や将棋と記載された回答者が何名かいたことを把握している。文化芸術振興計画は、文化芸術基本法に基づき策定されるものであるため、次期アンケートでは法の記述に沿った設問立てができるようにしていきたいと考える。 計画の進行管理における「定期的に」という表現についてであるが、毎年度進行管理を行うことが明確にわかるような表現にあらためたい。現状を申し上げますと、毎年度 1 回、各部署に計画関連事業の進捗を問い合わせ、計画に記載された指標についてはホームページ上で公開しているところである。
委 員	11 ページなどに記載のある凡例が小さく見づらいと思う。この冊子の仕上がりは 2 色刷りになるのか。 15 ページの表 5 について、「現在」と「希望」の意味するところが分かりづらい気がする。問 1 の設問と併せて初めて意味を理解できるようになると思う。 53 ページにある「こどもの文化芸術体験事業(アウトリーチ事業)」についてはどこを見れば詳しいことがわかるのか判然としなかった。特にここで言う「こども」とは小学生くらいの世代を指すのだろうか。5 年先を考えると、中学生や高校生を対象とした成果指標を作っていた方がよいのかなと思う。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
事務局	凡例等の視認性については、持ち帰らせていただき凡例や表の見直しを行いたい。印刷仕上がりについては、青黒を基調とした 2 色刷りを想定している。 15 ページの表 5 については、御指摘のとおり問 1 の結果と併せて見ていただく表となるので、わかりやすい記述ができないか持ち帰らせていただき検討していきたい。 アウトリーチの説明については、23 ページに注釈があり、ここで説明しているところである。 中高生をメインにした指標をとということについては、ここですぐ提案することが難しいため再度検討してお示ししたい。
委 員	53 ページの指標 5 については、「こどもの」という部分が 18 歳未満を指し、「児童」という部分が小学生程度を指し示しているように見えるので指摘したものであり、指標そのものを全見直しすべきという意図ではない。
事務局	アウトリーチ事業は、文化芸術振興課所管事業で、小学校にアーティストを派遣して芸術鑑賞をしてもらうというものである。このため、指標化する対象は小学生に主眼をおき「児童」としていた。 御指摘を踏まえ「こどもの文化芸術体験事業（アウトリーチ事業）の満足度」としたい。
委 員	この計画原案の基礎資料となっているアンケート調査の対象は 16 歳以上の市民とのことだが、34 ページの施策を推進していくにあたり、小中学生などの意見も聴くとさらに参考になるのではと思う。 7 ページの文化施設の老朽化についてだが、下段部にグラフや写真などは入ってくるのだろうか。ページとして寂しい状況になっている。 中央公民館の分室は小泉八雲ゆかりの施設であるが、7～8 年使われていない状況が続いている。そうした小さい施設でも関心を持ってもらえるよう直していってもらえればと感じている 以上、意見としてお伝えする。
会 長	御意見をいただいたところである。 この点について事務局からは何かあるか。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
事務局	アンケート調査については、他にも御指摘、御意見をいただいているところなので、次回実施する際に課題となってくるかと考えている。 7 ページの構成については、最終案確認の後の調整になってしまうと思うが、視認性を高める調整をしてまいりたいと考えている。 中央公民館分室の件については、担当部署と御意見を共有させていただく。
委 員	文化芸術振興課では、ウェスタ川越や文化会館などを所掌していると思うが、そうした施設の一覧資料などはあるのか。
事務局	施設の一覧資料については、計画書ではそうしたページを設けていないところであるが、市の公式ホームページ上ではお示ししているところである。しかし、こうした場で御質問をいただくということは周知手法に考えるべき余地があると考えてるので、今後のよりよい周知ができるよう研究課題としてまいりたい。
委 員	53 ページの指標の箇所では 8 つの指標が掲げられているが、進捗管理上は様々な事業成果を検証していると説明を受けた。この指標の見せ方について、もっとグラフィカルな手法があるといいかなと感じた。 26 ページの「メール配信サービス発信数」についてだが、令和 6 年度実績の 103 という数字はなかなか厳しい実績だと思う。計画に関連した事業が 60 くらいあるなかで、事業ひとつ当たり 1～2 回のメール発信ということになっている。今後、メールを含めて SNS 発信などはとても重要になってくると思う。文化芸術振興課だけでなく、市としての広報戦略として考えて頂きたいポイントである。
事務局	「メール配信サービス発信数」については、文化芸術振興課事業に関するメール配信に限定して集計している。というのは、庁内で各種事業の広報に関して頻繁にメール配信を利用しており、文化芸術というくくりで横断的に配信数を集計するのが難しいという現状がある。そうした背景があるので、目標値や実績値が文化芸術振興課事業に関する数値となっている。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
事務局	指標の見せ方についてだが、今すぐに御提案できるものは出てこないところだが、御指摘について理解させていただいた。
委 員	指標の見せ方なのだが、いろいろな事業の指標を書き出すと煩雑になり、見づらくなってしまうとも思う。
事務局	指標についてだが、様々な事業、それに関連する指標が背景には存在しており、その中で理念に直結するものを書き出したのが 53 ページの一覧となる。文化芸術に関する進捗管理指標をすべて書き出すのは困難であるため、このような書きぶりに落ち着いたところである。
事務局	(2) その他 本日あった意見、欠席委員からメールにて寄せられた意見を踏まえ原案を修正し、後日委員へ修正原案を送付することを説明した。 第 4 回川越市文化芸術振興計画審議会は、市立美術館アートホールにて、令和 8 年 2 月 10 日（火）午後 2 時から開催することを確認し、終了した（午前 11 時 00 分）。